

医療専門職(メディカルスタッフ)のはてな??

今回は社会福祉士についてお話しします。

第12回 社会福祉士編

・社会福祉士とは

社会福祉士とは、福祉や医療に関する相談援助に必要な専門知識・スキルがあることを証明する専門資格(国家資格)として、1987年5月に誕生しました。相談援助の対象者は、身体障害者【視覚・聴覚障害、呼吸器機能障害など】、生活困窮者、ひとり親の家庭など、心身や環境上の理由によって日常生活を送るのに支障がある方々です。

・社会福祉士になるには

国家資格である社会福祉士の資格を取得するには、社会福祉関係の指定科目を学べる大学へ進学するのが近道です。短大で指定科目を履習した場合、受験には1~2年の実務経験が必要になります。また、指定科目を履修せずに大学を卒業後、養成施設などで学んで受験資格を得る道もあります。

・社会福祉士の仕事内容

地域や施設などで、うまく生活ができない人(寝たきりの高齢者、身体障害者など)に、社会福祉サービスを用いて支援を行います。これらの方々が日常生活を送る上で「不便である」と感じたことの相談にのり、それを解決する手段を提案することがおもな業務です。

役所や地域包括支援センターで働く場合は、生活困窮者の相談にのることが重要になります。例えば、仕事の見つけ方をレクチャーしたり、生活や資金を支援する制度を探して利用を促したりするなど、相談者が当たり前の生活を送れるように努めるのです。その後、生活が安定(改善)したことを確認するため、定期的に訪問する必要もあります。

病院などの保健医療機関で働く社会福祉士(医療ソーシャルワーカー)も増えてきました。医療ソーシャルワーカーは、医師や看護師とは違う社会福祉の立場から、患者さん本人はもちろん、その家族が抱える問題の解決を図る役割です。療養中の患者さんや家族には、経済的・社会的・精神的な問題が数多く発生しますが、個々の相談にのり、関係機関と調整を行うことで社会復帰を促していきます。

■一般的な仕事内容

- ・高齢者の介護に関する支援(介護保険制度)。
- ・障害者や生活困窮者の支援(自立支援給付や補助金制度)。
- ・福祉施設への入居(介護士の派遣)。

・患者さんや家族の援助。

■当院における社会福祉士

- ・在宅復帰の相談支援。
(理学療法士との連携で「家屋評価」も行います)
- ・入院中の介護保険申請から認定調査・サービス利用への支援。
- ・地域包括支援センターや区役所保健福祉課等、地域との連携。
- ・各種施設への入所支援。
- ・医療連携による、情報・転院の支援。
- ・福祉制度利用の案内と支援。

■病院以外での活躍の場

・介護施設

介護施設では、入所者の生活に関わる相談に対応したり、家族との連絡調整などを行ったりします。また、入所や施設生活に関する相談だけでなく、施設介護から在宅介護へ移行するための連絡や調整、アドバイスをを行うこともあります。

・障害者施設

障害者支援施設では、社会福祉士は「生活指導員」、「生活相談員」、「支援相談員」などの名称で呼ばれることもあります。主に、利用者の相談援助や家族との連絡調整、施設の入退所手続きといった業務を担います。施設利用者の自律支援や退所後の生活援助を行うこともあります。

・児童福祉施設

社会福祉士は児童福祉の分野で、「ファミリーソーシャルワーカー」、「児童指導員」として活躍することができます。主に18歳未満の子どもが支援の対象です。児童福祉施設では、子育てに関する悩みや、非行や虐待などの問題と向き合います。

・地域の福祉サービスの場

社会福祉士は、都道府県や市区町村といった公的機関でも活躍することができます。県庁や市役所、地域包括支援センターでは、地域住民の福祉に関する相談窓口としての職務を担います。市民の悩みや相談に耳を傾け、各機関と連携し、より役立つ福祉サービスが提供できるように働きかけることが役割です。



〈医療ソーシャルワーカー〉

社会福祉の立場から、退院後の生活に必要な地域リソースの調整など、患者さんや家族の社会的・心理的困りごとの解決を支援する社会福祉士です。



FUKUSHIMA
INFORMATION
2020 AUTUMN



福島インフォメーション

地域に密着した良心的な医療を提供する事を使命としています。

■発行
医療法人永寿会
福島病院
〒535-0012 大阪市旭区千林2-4-22
TEL.06-6953-2940(代)
FAX.06-6953-2918
ホームページアドレス:
http://www.fukushima-hosp.or.jp
■発行日/令和2年 11月

理念

24時間いつでも誰でも気軽に利用できる、

地域に密着した皆様病院をめざします。

基本方針

正確な診断に基づいて最適な医療機関での治療をめざします。

幅広い患者のニーズに細かく対応して、

患者だけでなく従業員自身も安心して知人や身内を紹介できる病院をめざします。

新入職員紹介 (令和元年9月1日~令和2年8月31日)

令和元年 10/1 ■小森 和子(社会福祉士)	令和2年 3/16 ■谷山 朋右(営繕)	令和2年 5/1 ■北 志乃舞(看護師)
令和2年 2/3 ■松本 悠里(看護師)	令和2年 4/1 ■廣谷 かおり(看護師)	令和2年 6/1 ■工藤 喜美子(薬剤師)
令和2年 3/2 ■向柴 萌絵(看護師)	令和2年 4/1 ■桑野 由唯 (看護師)	令和2年 6/1 ■吉武 由紀(薬剤師)
令和2年 3/2 ■中村 ちはる(調理師)	令和2年 4/1 ■酒井 優衣(看護師)	令和2年 8/22 ■木田 仁美(看護助手)
令和2年 3/16 ■西谷 明子(調理師)	令和2年 4/1 ■石黒 彩夏(作業療法士)	

【広報係より】

本年も福島病院広報誌の発刊となりました。昨年より松本副院長が就任され、今回また「突撃インタビュー」と題して色々聞いております。ご期待ください。

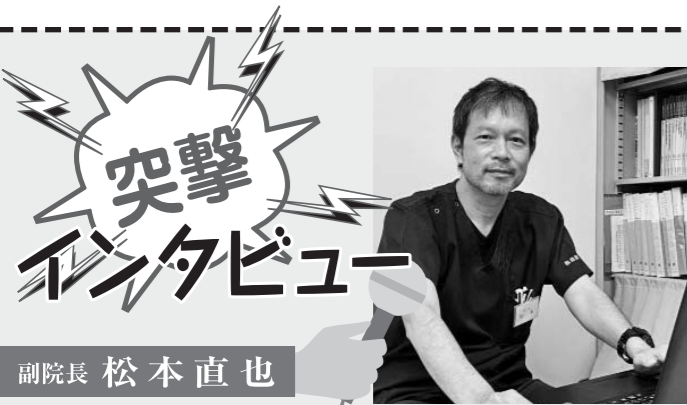
コロナ禍の中、少しでも皆様に福島病院を知っていただけるものがこの広報誌だと考えております。それでは、今回も盛り沢山の2020年秋号になっております。ご覧ください。

診療科目

外科・消化器外科・肛門外科・
整形外科・内科・糖尿病内科・
消化器内科・脳神経内科・
人工透析内科・放射線科・
リハビリテーション科・
麻酔科・救急科

当院の
診療科目です。





副院長 松本直也

今回は、松本直也副院長を突撃インタビューする予定でしたが・・・なんと先生自ら生い立ちを原稿にしてくださいました！
「松本副院長のすべて」と題してどうぞご堪能ください。

- 名前: 松本直也(まつもと なおや)。
- 学歴: 早稲田大学中退、神戸大学卒、京都大学大学院で医学博士取得。東京 → 神戸 → 横浜 → 京都 → 大阪 → ポストン → 長崎 → 大阪と渡り歩いてきました。日本の3大中華街を持つ都市制覇、関西三都物語制覇ですね。どこいっても、私の話す言葉は地元という言葉ではない、おかしいといわれます。自分的には関西人のつもりなんだけれども、アイデンティティーを失ってしまうこともしばしば。
- 関西人の印象: 東京から関西に住んだ時の印象は、声がかくて自分の意見をはっきりと主張しつつも親切な人が多い、戦後のあやしげな雰囲気が残る活気あふれる街が広がる、でした。
- お笑い: テレビのお笑いが面白すぎて、特に深夜は関西系の放送が多くて、大学での勉強もそっこのけで睡眠不足が続きました。
- 育った環境: 育ったのは東京の中でも荒川という、当時はかなりディープな下町でした。迷路みたいに家々が入り組み、猥雑ながら活気に溢れ、喧嘩早いけど心底やさしい人々が集っていました。千林はおしゃれですが、私にとってそんな懐かしさを感じさせてくれる街です。
- 好きなこと: プラット見知らぬ場所に行って彷徨うこと大好き。大自然の中に溶け込む旅をすることに憧れを抱きます。目先の目標はアウトドアのノウハウを身につけること。海外で1週間程度のトレッキングをしてみたい。以前にバンドやりました。で、音楽鑑賞という普通の趣味もあるのです。ただ、その好みが会う人には社会人になってからなかなか出会えませんが。並みの欧米のインディーズ系やリズム色の強いダンス系にしか過ぎないのですが…。一人で踊っています。

●スポーツ: スポーツ観戦で興奮するのはラグビー(日本代表)とアメフト(ペイトリオッツ)です。生まれて初めて会場でスポーツ見たのはラグビーの早慶戦。小学生の時でしたが、寒いで食べたこれも初めてのカップヌードルも忘れられない位おいしかった!それ以来、スポーツ観戦と食はリンクするようになりました。スーパーボウルなどの重要な試合は録画して、パーティー気分を作って臨みます。



●仕事(医師): 研修医1年目の時に神戸市内の病院で阪神淡路大震災を経験しました。住処はライフラインが長期に渡り途絶えていたということもあり、病院での合宿生活となっていました。この間に体験したことは、自身の人生に大きな影響を与えています。どんな風に? 将来小説にして出版しますので、乞うご期待! 思うことがあって、7年間、基礎医学研究の世界にいました。神経再生や炎症制御をターゲットに研究していましたが、対象疾患は急性疾患。〇〇科という専門縦割りが進んでいった当時の時代の中で、全身を診れる医師を理想像としていたこともあり、元々救急系には興味を持っていました。震災体験の中で生まれた災害医療や外傷に対する思いも強くなり、臨床復帰する際には救命の世界に入った次第です。ずっと大学病院の救命救急センターに所属しながら実験研究も続けていたのですが、これは医学部に入る前からの夢であった地域医療での貢献が最後の自身に残された課題でした。前述のように千林好きです。ここを、自分の昇華舞台にしようと考えました。

最後に・・・真の意味での地域医療には今まで携わってきたことがないので、完全な素人として始まっており、日々勉強。現場における様々な問題点をどのように自分なりに消化するか悪戦苦闘しています。現時点では皆様から学ばせて頂くことの方が圧倒的に多いのですが、いつかは自分が得てきたものを皆様に還元したいと鼻息を荒くしています。よろしくお願ひいたします。

出身大学: 神戸大学(H.06年卒) / 京都大学大学院卒
略歴: 神戸大学医学部附属病院 / 鐘紡記念病院 / 京都大学大学院医学研究科 / 大阪大学附属病院(助教) / Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School / 長崎大学病院(准教授)
資格: 医学博士 / 救急科専門医 / JATECインストラクター / 日本ICLSインストラクター

～愛すべき職場～ 地域連携室

地域連携室は当院4階フロアにある一室で、患者さんが自分に合った医療機関で医療サービスを受けることができるよう地域の医療機関と連携し支援を行っています。

地域連携業務には、「前方支援」と「後方支援」の2つの業務があります。前方支援業務では、地域の医療施設からの検査、治療、入院の依頼と当院をつなぐ連携の窓口としての役割を担っています。後方支援業務では、医療ソーシャルワーカーが患者さんの退院支援や、医療・福祉に関するご相談を受け、様々な協力やアドバイスをしています。

当院における私たち医療ソーシャルワーカーの仕事は、他の病院スタッフ、ケアマネージャーや在宅支援チームとともに連携を図り、切れ目のない医療・福祉サービスの提供を行い、入院時、入院中、退院時また外来診察での来院時に患者さん、並びにそのご家族が安心して治療に専念できるよう取り組むことです。

何かお困りのことや気になること、どんな些細なことでもいいので私たちに気軽にご相談ください。地域の皆様方に寄り添えるようより一層励んでいきたいと思ひます。



新卒看護師・作業療法士紹介

本年も新卒で看護師2名、作業療法士1名が入職しました。よろしくお願ひします。



看護師: 桑野由唯
出身: 大阪府
出身校: 大阪青山大学
一言: 一人一人の患者さんの役に立てるよう頑張っていきたいです。



看護師: 酒井優衣
出身: 長崎県
出身校: 香里ヶ丘看護専門学校
一言: コツコツ頑張っていけます。



作業療法士: 石黒彩夏
出身: 大阪府
出身校: 森ノ宮医療大学
一言: 作業療法士として成長できるように頑張っていきたいと思ひます。



病棟副主任看護師 中村 啓子

福島病院で看護師として働き始めて10年が経ちました。学生の頃から含めると、もう13年になります。この13年間で、多くの先生方・先輩・後輩との出会いと別れがあり、その中で沢山のことを学びました。分からないこと・疑問に思ったことを相談すると、とても丁寧に指導して下さい、それが今の自分の身につけているのではないかと思います。私が働き始めた当初とは違い、今は高齢化社会で看護する患者さんも介護度の高い方が多くなってきています。忙しい毎日ですが、患者さんの退院に向けて、チームで協力し合いながら、これからも頑張っていきたいと思ひます。



看護助手 上里 澄子

気が付けばもう10年を迎えていたのが実感です。初めは慣れない看護助手の仕事に戸惑い、務められるか不安になったことを思い出します。それでもここまで頑張ってくれました。スタッフの皆さんや家族に助けられて仕事を続けられたことに感謝しています。まだまだ頑張るこの仕事を続けていきたいです。これからもよろしくお願ひ致します。

10年勤続表彰

